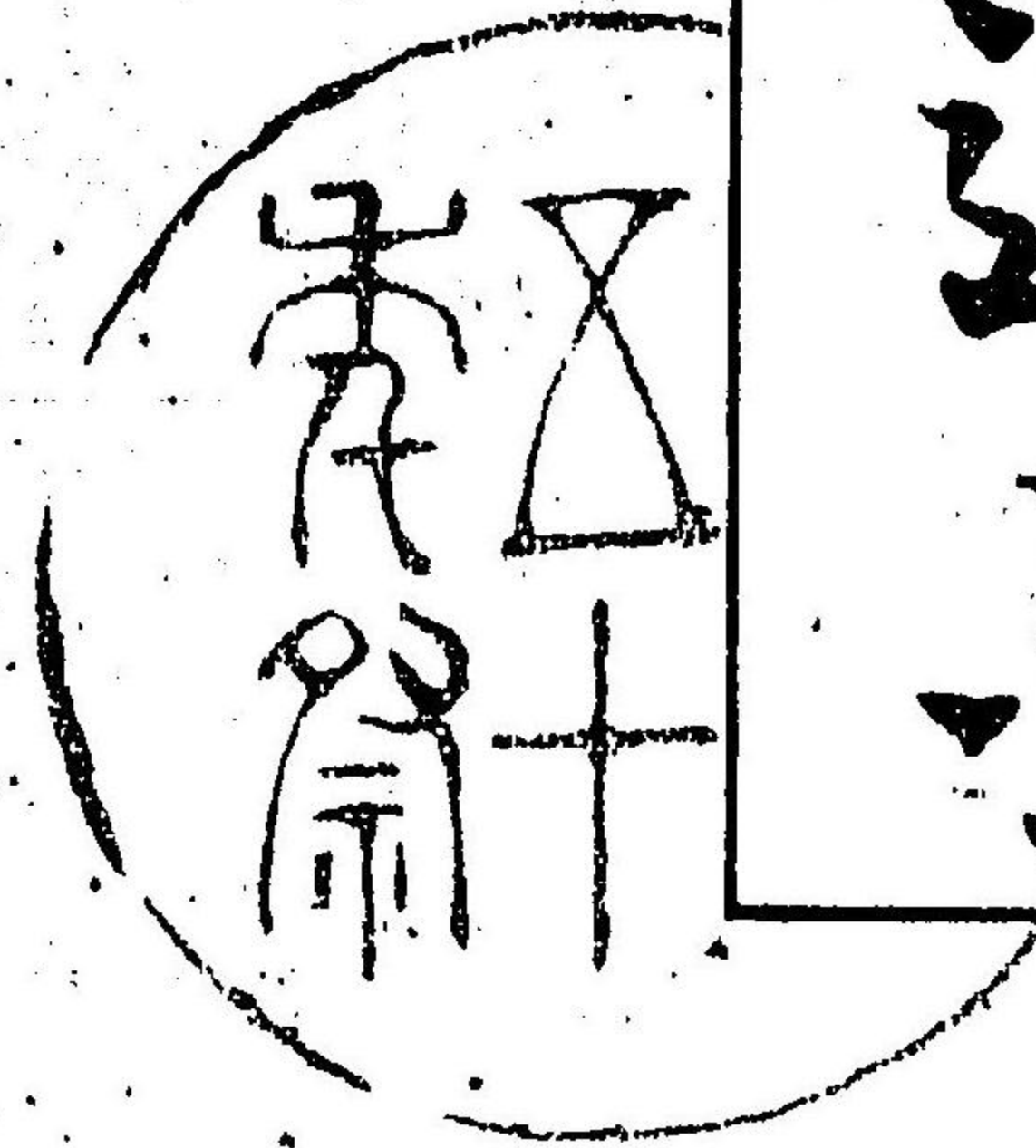
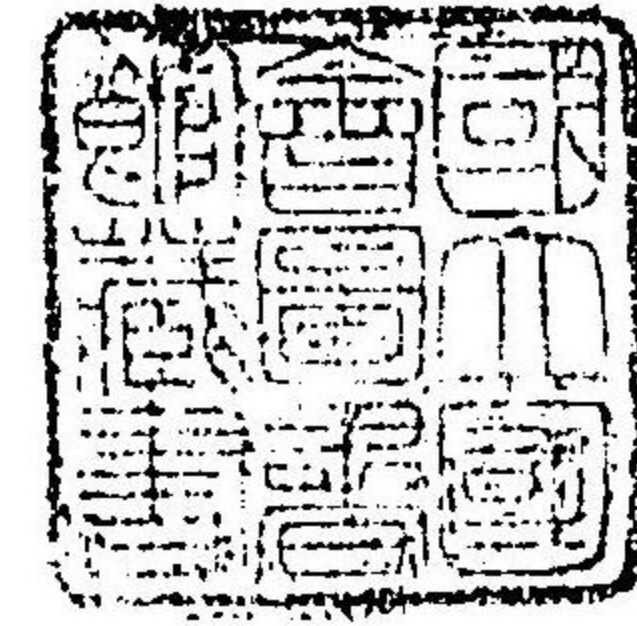


エト3283

高野長英先生遺墨

贈正  
肥田





329871

例言

一此卷は贈正四位高野長英先生五十年祭を舉行するに當り江湖有志に頒たんが爲めに編纂せり。

一此卷高野長英先生遺墨と題するも間挿むに先生と關係ある諸家の眞蹟を以てして其學問行事の由來を知るに便す。

一擴充居の三字は龜田鵬齋の筆に係り長英先生書齋の名なり然れども世之を知る者少なきを以て卷中に併せ收む。

一長英先生の手東は略ぼ年月に従つて次第せりと雖も前後の關係明かならざる者あらん幸に本傳と參照せられよ。

明治三十二年七月

編纂者 識

目次

- 一、 江戸遊學中義父元齋に寄する書柬
- 二、 義父元齋に長崎遊學の顛末を報する書柬
- 三、 長崎遊學中義父元齋に寄する書柬
- 四、 親戚に與へて志を告ぐる書柬
- 五、 龜田颯齋の書
- 六、 福田半香を柳田鼎藏に紹介する書柬
- 七、 獄中より米吉に寄する書柬
- 八、 杉田玄白より高野元齋に贈る訣別の詩
- 九、 蘭文一則
- 十、 シーボルトの書
- 十一、 物徂徠の軍法不審を讀むの跋
- 十二、 杉田玄白より高野元齋に與へし書柬
- 十三、 渡邊華山の書柬
- 十四、 大槻玄澤より高野元齋に與へし書柬

明治三十二年七月一日印刷  
明治三十二年七月五日發行

不許發賣



編纂兼發行者

巖手縣陸中區水澤町二百六番地  
高野長運

印刷者

東京日本橋區本町三丁目十三番地  
芳野兵作

故高野長英先生紀念碑建設の趣旨

鎮撫の陋習一世を蔽ふの社會に提起して泰西日新の文物を修め舊思想を久しく熟するの餘に排し新氣運を未だ來たらずるの先に啓さんとす而かも遠識時に容れられず危言徒らに奇禍を買ふて慘痛の死を致せる高野長英渡邊華山二先生の如き其跡豈に謂はざる可けんや維新開國の大業成りて今日の休明を見るに至りたるも其原に溯るときは二先生の身を殺して其所信に殉せるものありて力あり華山先生は既に明治廿四年を以て贈位の榮典を辱うし其紀念碑の如きも有志者の建設に成りて旌功表烈其さに至れるも長英先生は一事の身後に榮するなく志あるの士深く之を遺憾とす然るに今年七月四日朝廷辱くも先生の功を録し特に正四位を追贈し給へり某等平素先生の偉蹟を追慕するもの欣躍措く能はず因りて來る明治三十二年十月先生五十年祭を期し一大紀念碑を建設し其遺墨を寫眞石版に付し傳記を編み且つ追吊の詩文歌辭を纂集して以て上は贈位の聖旨を發揚し下は先生の餘烈を表彰し後人をして永く矜式する所あらしめんことを茲に其設計方法を具して弘く篤志の贊助を請ふ仰ぎ願はくは江湖の諸君子某等の微志を諒し此舉を莫成せられよ謹白

明治三十一年十二月

- 一 紀念碑建設の場所ハ陸中國艦隊水澤町公園ニ定ムル明治三十三年五月ヲ期シテ竣工スル事
二 紀念碑建設及ヒ遺墨寫眞出版ノ豫算費額ハ六千圓トシ内八百圓ハ長英先生ノ曾孫高野長連氏ノ負擔トシ殘額五千二百圓ハ廣ク江湖有志ノ義捐ヲ募ル事
三 義捐金ハ明治三十二年十月ヲ以テ募集締切ノ期限トスル事
四 義捐者ノ姓名ハ堅牢ナル芳名録ヲ調製シ永ク遺族ニ保存シ義捐金額試問以上ノ方ニハ遺墨傳記若クハ追吊集一部ヲ贈呈スル事
五 追吊ノ詩文歌辭ハ明治三十二年十月三十日迄ニ陸中國艦隊水澤町高野長連氏方ニハ建碑事務所ニ寄贈スル事
六 義捐金ノ取扱及ヒ保管ハ左記ノ銀行ニ托スル事
○東京市日本橋區南茅場町十九番地
○東京市日本橋區三ノ間堀一丁目四番地
○宮城縣仙臺市大町二丁目
○盛岡市橋本町
○岩手縣盛岡市水澤町
七 建碑事務所ハ左記ノ所ニ設ケル事
○東京市日本橋區小網町一丁目(故神崎源藏氏)片岡八藏方及同市神田區錦町一丁目十番地松浦玉圃方ニ置キ齋藤實君一切ノ事務ヲ擔任ス
○仙臺市ハ仮ニ市役所ニ置キ里見長雄君一切ノ事務ヲ擔任ス
○盛岡市香野君手毎日新聞社内ニ置キ清岡等君一切ノ事務ヲ擔任ス
○水澤町平井徳彌方ニ置キ鈴木恩治高橋金治下坂坂權三郎阿部靖之助ノ諸君一切ノ事務ヲ擔任ス

建碑發起人

Table listing names and titles of individuals who initiated the monument construction, organized by region and rank.

新編 漢書 卷之...

Main body of text, likely a table of contents or index, with multiple columns of vertical text.





つらき事多し候間先づ申す所は  
一 夫より五條へ此迄迄の程は  
一 此迄迄の程は五條より此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は  
此迄迄の程は此迄迄の程は此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は  
此迄迄の程は此迄迄の程は此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は

一 夫より五條へ此迄迄の程は  
一 此迄迄の程は五條より此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は  
此迄迄の程は此迄迄の程は此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は  
此迄迄の程は此迄迄の程は此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は  
此迄迄の程は此迄迄の程は此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は

一 夫より五條へ此迄迄の程は  
一 此迄迄の程は五條より此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は  
此迄迄の程は此迄迄の程は此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は  
此迄迄の程は此迄迄の程は此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は  
此迄迄の程は此迄迄の程は此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は

一 夫より五條へ此迄迄の程は  
一 此迄迄の程は五條より此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は  
此迄迄の程は此迄迄の程は此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は  
此迄迄の程は此迄迄の程は此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は  
此迄迄の程は此迄迄の程は此迄迄の  
程は此迄迄の程は此迄迄の程は





龜田 鵬 齋 筆 高野長運 藏

# 廣 光 居

鵬 齋 筆

高野長英 筆 曾孫長運 藏

光居の中に一は運又は  
 書二策子三はて 雲外散  
 千軍の雲外 縮も 約 圓  
 仁心 秋冷 心 心 心 心  
 来 山 山 山 山 山 山  
 比 比 比 比 比 比  
 与 素 素 仁 仁 仁 仁  
 各 各 各 各 各 各  
 仍 仍 仍 仍 仍 仍  
 建 建 建 建 建 建  
 港 港 港 港 港 港  
 以上 神 氣 為 櫻 心 心  
 且 且 且 且 且 且  
 高 高 高 高 高 高  
 能 能 能 能 能 能  
 多 多 多 多 多 多  
 身 身 身 身 身 身  
 年 年 年 年 年 年  
 此 此 此 此 此 此  
 學 學 學 學 學 學  
 在 在 在 在 在 在  
 於 於 於 於 於 於  
 此 此 此 此 此 此  
 の お 身 心 化 心 心 お 勤 り 心

丹阿のちお立セマハ是近家  
 此息ハ十方ノ一ヲ報カ悉ク  
 寢者未見ハ知西陣ノ學子ハ  
 一ツ目物カハ付テ了東都北  
 少シ行移ハ紛 是キノハ  
 不況下ニ未々ノ然ル前  
 二ハ發言者ハ吹目意ハ元  
 集テ心以集カ交リテ  
 禍ニ及リハ 水津中ノは為  
 之ハお朱白論上ノハ是  
 之ハお所詮は言ハ多病上  
 均者信也 醫事ハ行業カ  
 何方ニ若病カ大 醫業ハ  
 行業ハ是ホシ家内リハ  
 解々ハ其主取カ就  
 其ノ是カ此ノ東都ニ赴キ若  
 病カ否ハ是カ東都ニ赴  
 年 遊學ノ地劍頭  
 親友多ク 病ッ者ニ宣ク又  
 仰上ノ以用ヲ勤ム思ハ先  
 白田ガ書中ガ各近均者ハ  
 其ガ多クハ只今ノ病身カ  
 其ノ思ハ均報シニお系カハ  
 在何年一 是柳安信ハ  
 以小見多ク取お覺カ一  
 善子ハ任後ニ取カ上東

都者病中ハお母大ハ守  
 正病中カキテ 赤道ニ付カ  
 任後多クハカキテ 柳ノ  
 柳ノ 柳ノ 柳ノ 柳ノ  
 婦ニハ 柳ノ 柳ノ 柳ノ  
 不候所 東都ニ出テ他  
 事カハハ 柳ノ 柳ノ 柳ノ  
 一旦事 見テ了 柳ノ 柳ノ  
 何方カ事 見テ了 柳ノ 柳ノ  
 其ノハ 柳ノ 柳ノ 柳ノ  
 柳ノ 柳ノ 柳ノ 柳ノ  
 分テリ 善者長ニ思ハ  
 白ノ今又 柳ノ 柳ノ 柳ノ  
 必ス計リカキテ 柳ノ 柳ノ  
 守カハ 柳ノ 柳ノ 柳ノ  
 母カ老ッ者ハ 柳ノ 柳ノ  
 一息ヲ報カ 柳ノ 柳ノ  
 其ノ筆字ハ 柳ノ 柳ノ  
 守カハ 柳ノ 柳ノ 柳ノ  
 子カ禮ニ 柳ノ 柳ノ  
 其ノハ 柳ノ 柳ノ 柳ノ

九月廿四日  
 善者長黄  
 准田與五ノ様  
 小橋源ノ様  
 後藤持助様

古陽之古名外海同  
也及中世中世在  
古康之成在  
然其本古名小  
此古名古名在  
古陽之古名外海同  
也及中世中世在  
古康之成在  
然其本古名小  
此古名古名在

澤陽之古名外海同  
也及中世中世在  
古康之成在  
然其本古名小  
此古名古名在  
古陽之古名外海同  
也及中世中世在  
古康之成在  
然其本古名小  
此古名古名在

望之古名  
柳田阿三郎

新羅門 壬午秋  
孫氏存 臨海五  
成比 老 壽 少  
上 七 壽 玉 斗 在 聖 次  
不 心 一 足 也 為 保  
少 女 三 子 妙 不 後 書  
都 久 之 建 二 年 秋  
法 籍 前 日 之 夏  
如 十 三 少 所 之 心  
清 少 之 言

山ノ十二

米也保

意下之 去 於 後 書  
信 如 是 日 一 語 分 三 武 通  
意 又 以 後 掌 統 志 年  
ハ 老 臣 少 少 往 後 也 少 少  
所 法 籍 前 日 之 夏  
如 十 三 少 所 之 心  
清 少 之 言  
此 乃 之 言 之 止 休 意 之 少  
所 見 通 之 年 八 十 三 年  
去 之 也 存 之 心 一 時 也

子 以 均 未 未 也 此 語 存  
多 有 一 口 信 付 中  
や 其 氏 之 五 聖 之 聖  
法 籍 前 日 之 夏  
歌 方 保 宜 是 未 龍  
法 籍 前 日 之 夏  
此 乃 之 言 之 止 休 意 之 少  
所 見 通 之 年 八 十 三 年  
去 之 也 存 之 心 一 時 也

上清に侍りて中書侍郎  
王公の死を告げたり  
此言此世に西風公と  
稱すは周の何の言き  
子て云ふは之を割る  
其の野に赤き花の如  
笑ふは白を捨てて上  
の如くもはは笑ふ  
をさすはたはたは  
見るはあまふふ人  
見れしより瑞鳳と  
よみたるあのみ  
あふは潮風の如し  
あふは如松の如し  
あふは去れぬのみ  
あふはくはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中

杉田玄伯筆 高野長蓮藏

臨みたり為家もあはれ  
白濁のあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中  
あふはあふの中

山  
名 銭  
高子 子風

高野長英筆 福田宗植藏

Stuvia e Kameri

De waterdrippet maakt den

Steen hot, niet met geweld,

maar door er dikmaals

op te hakken.

1836 Door Takano Jozai.

二水化上筆 世田月三所藏

斯也物尔德之音

Wants

高野長英筆 藤字房藏

Jen.

但徠先生ノ軍法不審ヲ護ムノ跋

右十條ノ兵道疑問ハ觀ル世ノ兵學者流ノ嘲ルノ醜語  
ニ似タリ然レモ其要ル所ニ從來ノ通弊ヲ矯ムト欲スル  
ナリ其戰法ニ定法ナシ須ク時代ノ變化ト軍器ノ制作  
ニ際キテ之ヲ改ムト云ヒ又今ノ兵法ハ大率榮後ノ肉ニ卷  
實用ニ益ナキ等ノ語ニ三百年來未タ世人ノ言ハル所  
ニナラズ然ルニ高妙ノ確論ナリ文勢凛々秋風ノ樹葉ヲ  
掃リカ如ク又電雷ノ有目ヲ驚カス如ク敬服ノ餘ヲ黙止  
スルヲ能ハス竟ニ一言ノ卷尾ニ題スル云フ

八月望後二日

曉夢樓主人識

Edinburgh University

in

Kindness.

高野長英筆 市原長運藏





心静かに花を愛す

花の香りに心を酔わす

花の影に心を慰ます

花の姿に心を驚かす

十上

花

花の心

花の心は人の心と通ずる  
 花の影は人の影と似る  
 花の香りは人の香りと混ざる  
 花の姿は人の姿と異なる  
 花の心は人の心と通ずる  
 花の影は人の影と似る  
 花の香りは人の香りと混ざる  
 花の姿は人の姿と異なる  
 花の心は人の心と通ずる  
 花の影は人の影と似る  
 花の香りは人の香りと混ざる  
 花の姿は人の姿と異なる

心

花

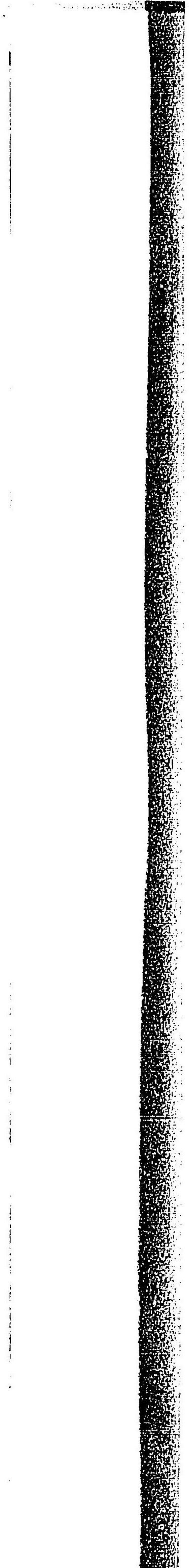
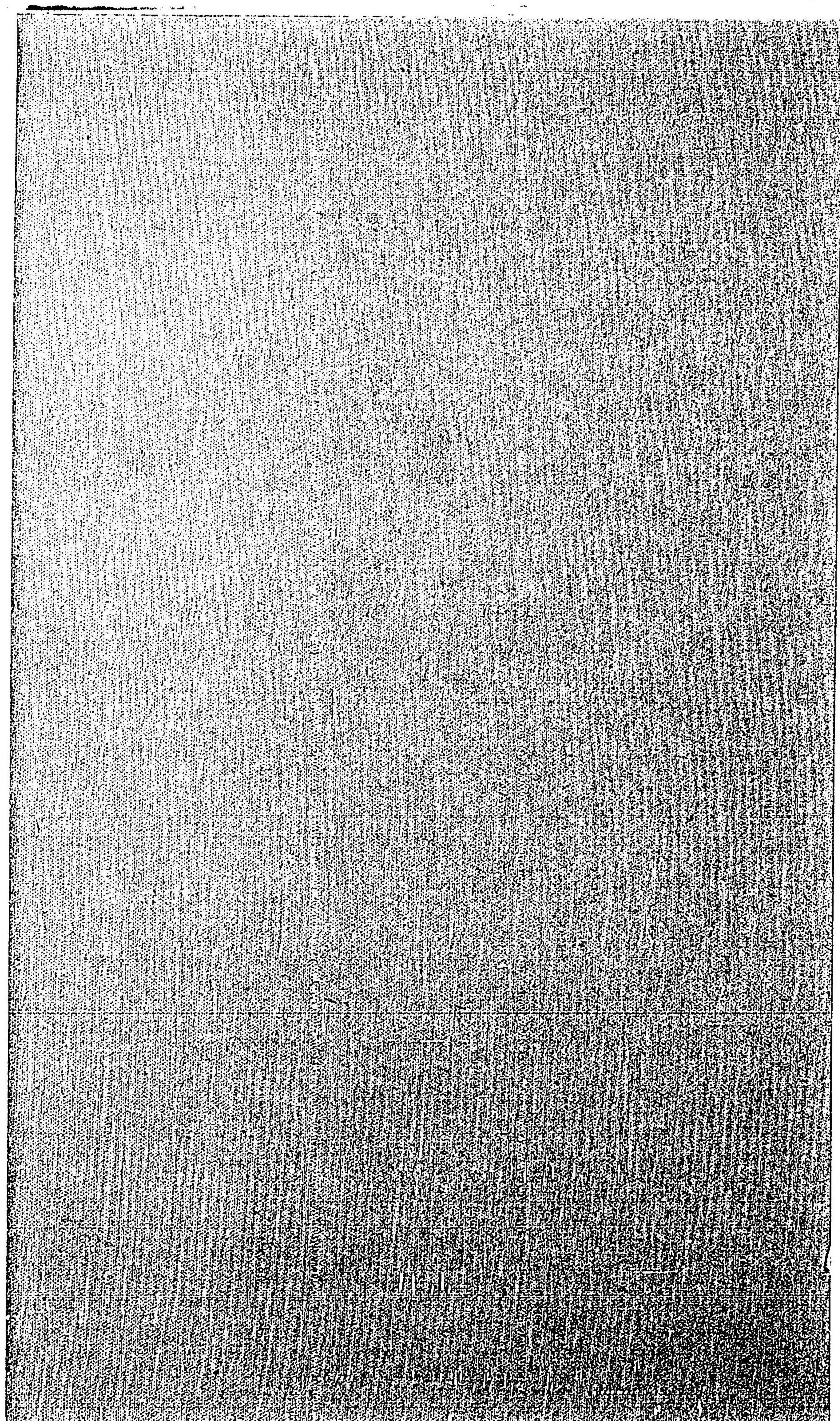
花の心は人の心と通ずる  
 花の影は人の影と似る  
 花の香りは人の香りと混ざる  
 花の姿は人の姿と異なる  
 花の心は人の心と通ずる  
 花の影は人の影と似る  
 花の香りは人の香りと混ざる  
 花の姿は人の姿と異なる  
 花の心は人の心と通ずる  
 花の影は人の影と似る  
 花の香りは人の香りと混ざる  
 花の姿は人の姿と異なる  
 花の心は人の心と通ずる  
 花の影は人の影と似る  
 花の香りは人の香りと混ざる  
 花の姿は人の姿と異なる

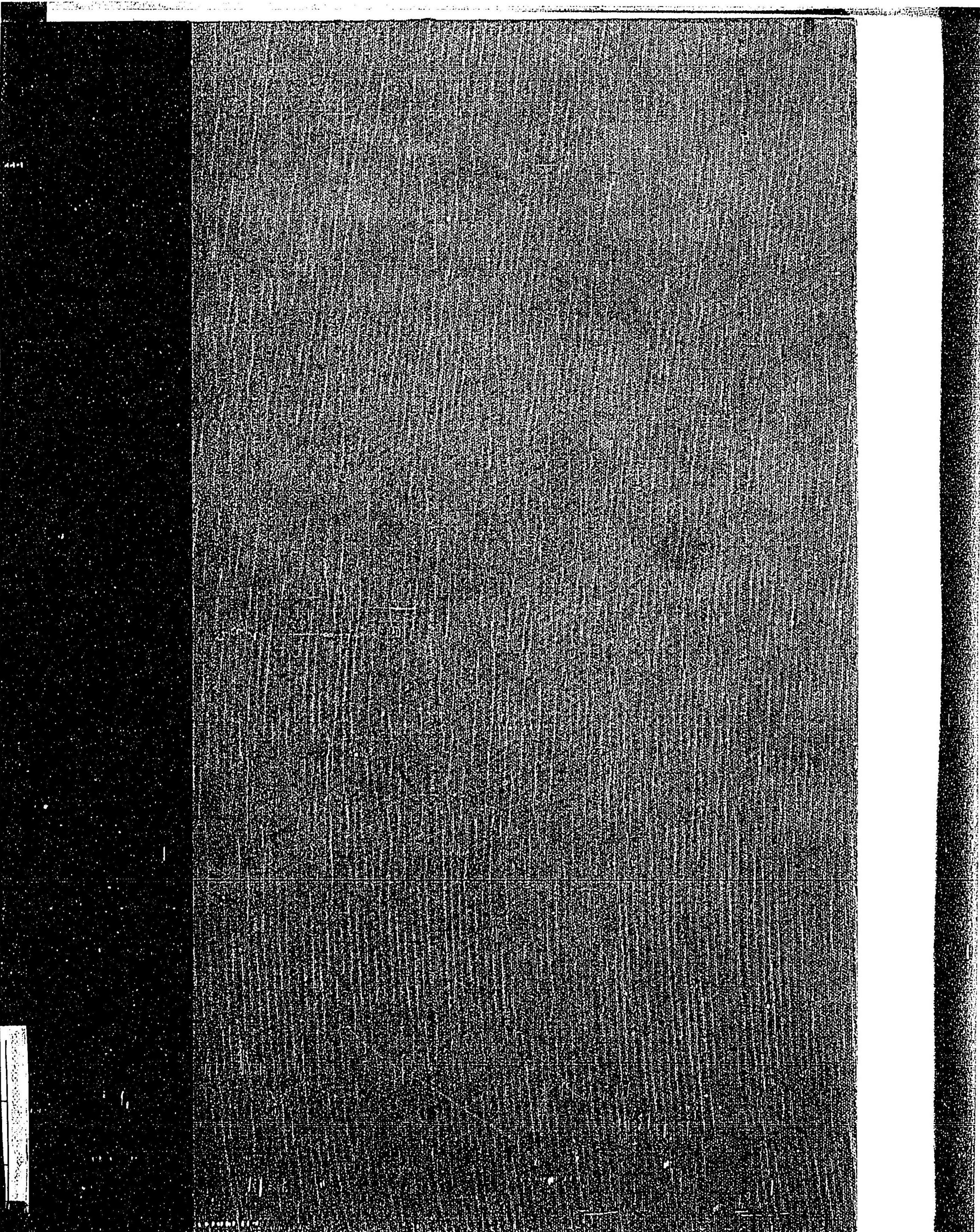
九日申の如く  
西の山々より  
北の山々より  
東の山々より  
南の山々より  
北の山々より  
東の山々より  
南の山々より  
西の山々より  
北の山々より  
東の山々より  
南の山々より  
西の山々より  
北の山々より  
東の山々より  
南の山々より  
西の山々より

高野長蓮藏  
大槻玄澤  
丁卯年六月  
北の山々より  
東の山々より  
南の山々より  
西の山々より  
北の山々より  
東の山々より  
南の山々より  
西の山々より  
北の山々より  
東の山々より  
南の山々より  
西の山々より  
北の山々より  
東の山々より  
南の山々より  
西の山々より  
北の山々より  
東の山々より  
南の山々より  
西の山々より

工3Y83

田  
治  
道  
治







006968-000-7

289.1-Ta363tT

高野長英先生遺墨

高野 長運/編

M32

ACK-0753



